

(3) 動物と妖怪等

呼び名の聴き取りの中で、併せて採録した動物と妖怪等との関係に関する話をまとめた。

こうした話は、第三者の体験事項として当時の村人の中で実しやかに話されたり、子ども達が危険な場所で遊ばないよう戒めるために日常的に使われたりした。

昔は夏になると、当時の年寄りが縁台で蚊遣りをしながら、他の村人がタヌキやキツネに騙されたり化かされたりした話を子ども達によく聞かせたという。

なお、一部の高齢者はこれらを実際に起こった事実として捉えていた。

動物

a) タヌキ

地域に山林が広がり、集落間や田畑をつなぐ道沿いには木立が多く暗い山道が残っていた当時において、山辺の集落を中心に、多くの集落で村人がタヌキに化かされたという話が数多くみられた。

キツネとの違いについて「キツネは騙し、タヌキは化かす」という話があったが、人によって異なる場合があり、あいまいな部分が残る。

「タヌキに化かされているかどうかは、足を払えばわかる」という話のほか、タヌキが林を燃やしているように見せかけたり、汽車を停めたといった話がみられた。

「昔、陰涼寺山には大タヌキがいて、汽車を停めた」

b) キツネ

地域に山林が広がり、集落間や田畑をつなぐ道沿いには木立が多く暗い山道が残っていた当時において、山辺の集落を中心に、多くの集落で村人がキツネに騙されたという話が数多くみられた。

家へ帰る途中にキツネに騙され、道を間違え持参していた食べ物が（食べられて）なくなってしまったという話や、騙されたことに気がつかず池の周囲を何度も歩いている人や野溜めの中に入っていた人がいたという話、きれいな服を着た若い女性の手引きについて行き、気がついたら池の中にいたというような話が多く集落であった。また場所によってはゲンナイキツネ等名前のついた古ギツネがいて人をよく騙したという話もみられた。

「おかしいと思ったらマッチやタバコの火をたけ」と言い、帰りが遅くなる場合には化かされないよう火の気となるマッチを持参したり、タバコに火をつけて帰ってきたりしたという。

なお、キツネ火に関する話のあった集落もみられた。

「井尻町の現昭和パックス下、石上寺の上や現回生病院の所で、しばしば煙が立つ大きなキツネ火が出た。特に井尻の所ではそれで汽車が止まった」

c) カワウソ

どのように化けるかについての話はなかったが、人を騙すという話とともに、カワウソがネコに次ぎよく化けて怖いことを示す表現がみられた。

「キツネ七化け（ななばけ）、タヌキ（は）八化け（やばけ）、カワ（ウ）ソ九化け（ここのばけ）、ネコ（は）十化け（とばけ）」

d) テン

どのように化けるかについての話はなかったが、一部の集落でテンが化けたものを「ケテン」と呼び、子ども達が危険な場所に行かないよう戒める妖怪として使われた場合がみられた。

「そんな怖いと行くと、オオカミやケテンが出るぞ」

e) ネコ

どのように化けるかについての話はなかったが、ネコが最もよく化けて怖いことを示す表現がみられた。

「キツネ七化け、タヌキ（は）八化け、カワ（ウ）ソ九化け、ネコ（は）十化け」

その他

a) ツルベオロシ（又はツルベオトシ）

郡内に山林が広がっていた当時は、山辺の集落はもとよりほとんどの集落に深い木立や山林があり、そうした森の木の上において、人を引っ張り上げて食べてしまうとも言われる妖怪である。子ども達が夕方遅くまで遊んで家に帰ってこないことを戒める怖い妖怪として、多くの集落で高齢者がよく子ども達に話をしていたという。

郡内の広い範囲で同様な話がみられ、日常的によく話された一般的な妖怪であったようである。

なお、動物との関係については、ムササビとの関係を述べる人がいた一方、木に登り身についた砂を払い落とすタヌキとの関連を示す話がみられた。

b) カッパ

カッパは、郡内においても川や池等に生息する妖怪とされるが具体的な話はみられず、子ども達が川や池の深みといった危険な場所で魚取りや泳いだりしないよう戒める妖怪として、「カッパに尻を抜かれるぞ」とスッポンと同様な使われ方をされたり、「深みに行くとカッパに足を取られるぞ」と言われたりした。

c) ツチノコ

妖怪ではないが、山辺の集落の一部でツチノコに関する話を採録した。

白川地区、庄内地区及び椿地区では「ツチノコ」、亀山町住山町では「ツチノコネズミ」と呼ばれる生き物についての伝聞の話であり、内容がはっきりしないことから人や集落によりヘビ類、モグラ類又はネズミ類の一種と認識されたようである。

なお、周辺地域として参考で聴き取りを行った伊賀市柘植町では「ゴハッスン (= 五八寸)」という呼び名とともに、寸胴型の生き物である旨の話がみられた。

d) その他

- ・ 妖怪ではないが、亀山市白木町では「押之坂では馬の首が出る」と、村人に恐れられたという話がみられた。
- ・ 周辺地域として聴き取りを行った郡北部で隣接する四日市市水沢町では、人が最もよく化けて怖いということを示す表現がみられた。
「キツネ七化け、タヌキは八化け、人は怖いぞ九化け」
- ・ 周辺地域として聴き取りを行った郡北部で隣接する四日市市山田町では、「近くの八幡さんに天狗がいて太鼓をたたいていた」という話がみられた。

参考 当時の鈴鹿郡の状況

当時は平野部にも山林が広がり、道路については人通りの多い旧街道や町中にある一部の道を除き、現在のような幅広い道路は少なかった。とりわけ山辺の集落を中心に集落間の道は細く、木立に覆われた所が残り、そうした場所では夕方になるとすぐに暗くなった。また河川も近代的な改修が行われておらず、山や川に棲む動物等が身近に見られた。

なお、当時以前のことであろうが場所によっては追剥が出没したという話もみられた。